

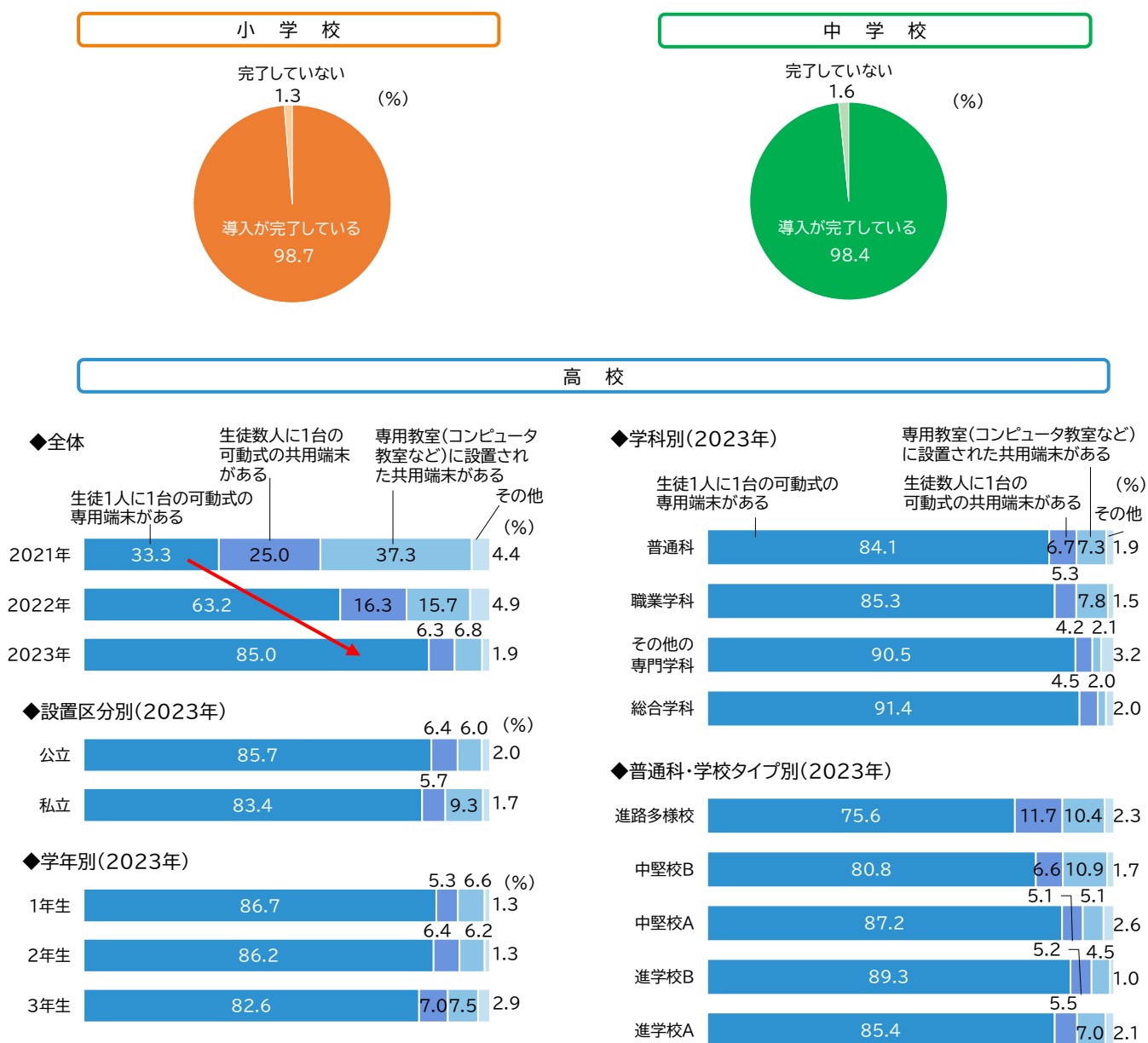
## 1人1台端末の導入状況

### 小・中学校はほぼ100%、高校は85%

1人1台端末の導入は、小・中学校では、ほぼ100%が完了している。一部、完了していない学校があるのは、端末の故障などのためだと考えられる。高校は、2021年からの2年間で導入が進みつつあり、2023年には85%になった（「生徒1人に1台の可動式の専用端末がある」）。ただし、普通科の学校タイプ別（p.5参照）では、進路多様校や中堅校Bで導入の遅れがみられ、さらなる整備が望まれる。

- Q 貴校について、次のようなことはあてはまりますか。  
 ——「1人1台端末(パソコンやタブレットなど)の導入が完了している」(小・中学校)  
 Q 生徒のICT機器(端末)の利用環境について、もっとも近いものを1つ選んでください。(高校)

図1-1 1人1台端末の導入状況(2023年)



※「導入が完了している」は、質問に「あてはまる」と回答した教員、「完了していない」は「あてはまらない」と回答した教員（小・中学校）。  
 ※高校の「全体」のみ、2021年、2022年の数値を示している。設置区分、学年、学科、普通科の学校タイプはp.5参照。

## デジタル教科書の導入状況

### ここ1年間では、高校の指導者用の導入率が高まっている

デジタル教科書の導入率は、小学校高学年で高いが、ここ1年間の変化は小さい(図1-2)。中・高校では教科による差がみられ、外国語での導入率が高いが、ここ1年間では、中学校は、数学(指導者用・学習者用)、外国語(学習者用)で、高校は、外国語以外の教科(指導者用)で、導入率が高まっている(図1-3)。

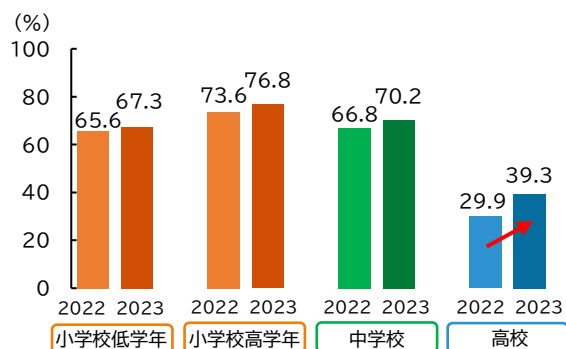
Q 貴校について、次のようなことはあてはまりますか。

——「あなたが主に担当する学年の教科で、指導者用デジタル教科書が導入されている」

——「あなたが主に担当する学年の教科で、学習者用デジタル教科書が導入されている」

図1-2 デジタル教科書の導入状況(2023年)

#### ① 指導者用



#### ② 学習者用

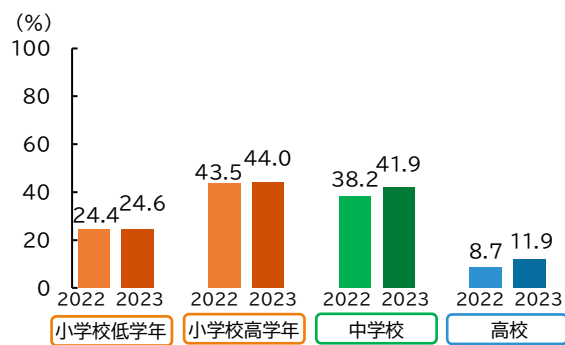
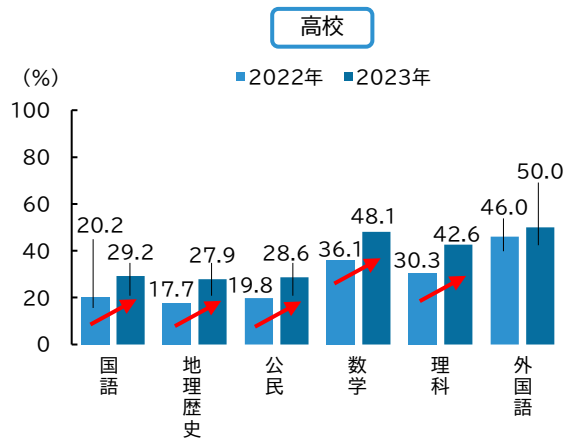
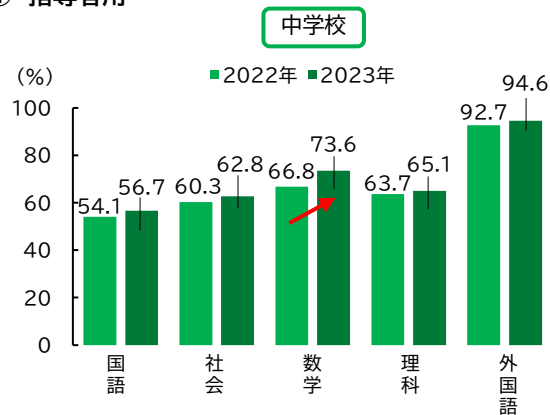
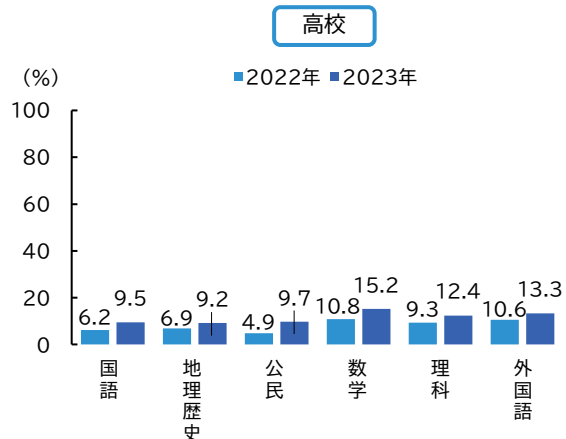
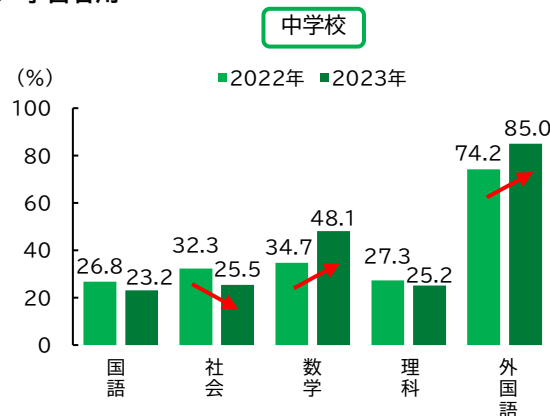


図1-3 デジタル教科書の導入状況(2023年、教科別)

#### ① 指導者用



#### ② 学習者用



※「あてはまる」の% (図1-2~3)。

※小学校教員は担当する学年について、中・高校教員は担当する学年の教科について回答している(図1-2~3)。

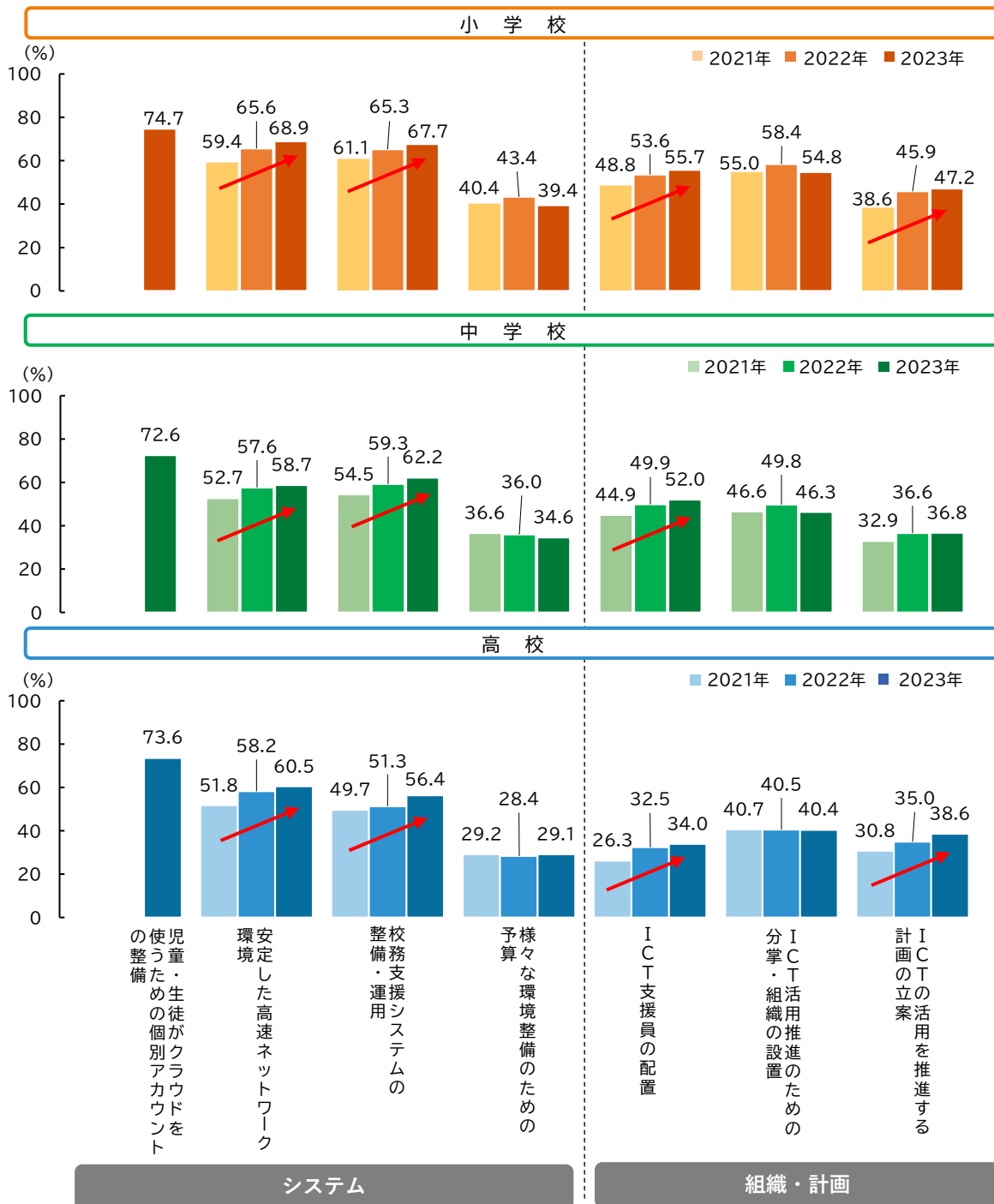
## 1人1台端末の利用環境の充実度 (1/2)

### 利用環境の充実度は、ここ1年間では微増にとどまる

1人1台端末の利用環境をみると、2021年からの2年間で、「安定した高速ネットワーク環境」「校務支援システムの整備・運用」「ICT支援員の配置」などの充実度が徐々に高まっているが、ここ1年間での変化は微増にとどまる。システム、組織・計画について、ここ1年間で5ポイント以上増加したのは、高校の「校務支援システムの整備・運用」のみである。ICT活用を進めるためには、利用環境のさらなる充実が求められる。

Q 1人1台端末を活用した教育を推進していくうえで、次のこと(16項目)はどれくらい充実していますか。

図1-4 1人1台端末の利用環境の充実度(経年比較)



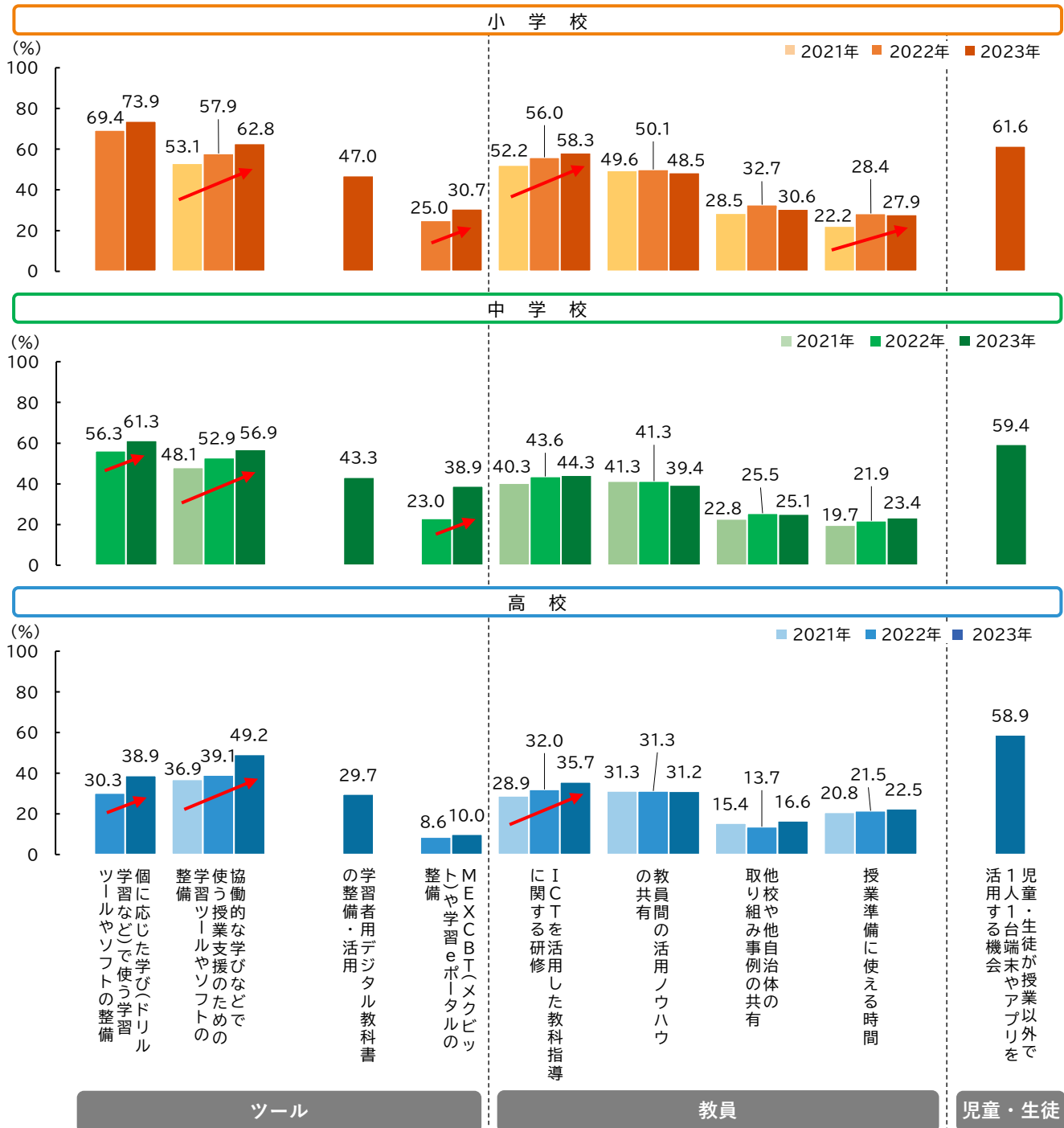
※高校は「ICT機器を活用した教育」について尋ねている(図1-4、図1-4つづき)。  
 ※「児童・生徒がクラウドを使うための個別アカウントの整備」は2021年、2022年は尋ねていない。  
 ※「とても充実している」+「まあ充実している」の%。

## 1人1台端末の利用環境の充実度 (2/2)

「ツール」については、「学習ツールやソフト」の整備、小・中学校では「MEXCBT（メクビット）」の整備などの充実度が、ここ1～2年間で高まっている。一方で、教員の「研修」、ノウハウや事例の「共有」、「授業準備に使える時間」については、ここ1年間での変化が小さく、さらなる充実が求められる。今回初めて尋ねた「児童・生徒が授業以外で1人1台端末やアプリを活用する機会」の充実度は、小・中・高校とも6割前後で、多くの学校では、授業以外でも児童・生徒のICT活用が進められていることがわかる。

Q 1人1台端末を活用した教育を推進していくうえで、次のこと(16項目)はどれくらい充実していますか。

図1-4つづき 1人1台端末の利用環境の充実度(経年比較)



※「個人に応じた学びで使う学習ツールやソフトの整備」「MEXCBTや学習eポータル(メクビット)の整備」は2021年は尋ねていない。「学習者用デジタル教科書の整備・活用」「児童・生徒が授業以外で1人1台端末やアプリを活用する機会」は2021年、2022年は尋ねていない。「協働的な学びなどで使う授業支援のための学習ツールやソフトの整備」の2021年の数値は「学習ツールやソフトの整備」と尋ねたもの。

※「とても充実している」+「まあ充実している」の%。

## 教員の授業でのICT機器の活用頻度

### 半分以上の授業でICT機器を活用する教員は、小学校高学年で89%

教員が授業でICT機器を活用する頻度は、小・中・高校とも、2021年からの2年間で大幅に高まっている。半分以上の授業（「毎回の授業」～「半分程度の授業」）で活用している教員の比率は、2023年は、小学校高学年が89%、高校でも72%である。その内訳をみると、小学校では「7～8割程度の授業」で、中・高校では「毎回の授業」で活用している教員が多い（図1-5）。端末の利用環境の充実度との関連をみると、小学校高学年では、「ICTの活用を推進する計画の立案」「ICTを活用した教科指導に関する研修」などが充実しているほど、教員が授業でICT機器を活用する頻度が高い（図1-6）。他の学校段階でも同様の傾向がみられる。

Q あなたは授業のなかでICT機器をどれくらいの頻度で使用していますか。  
 ——「あなた(教員)がICT機器を使って指導すること」

図1-5 教員の授業でのICT機器の活用頻度(経年比較、学校段階別)

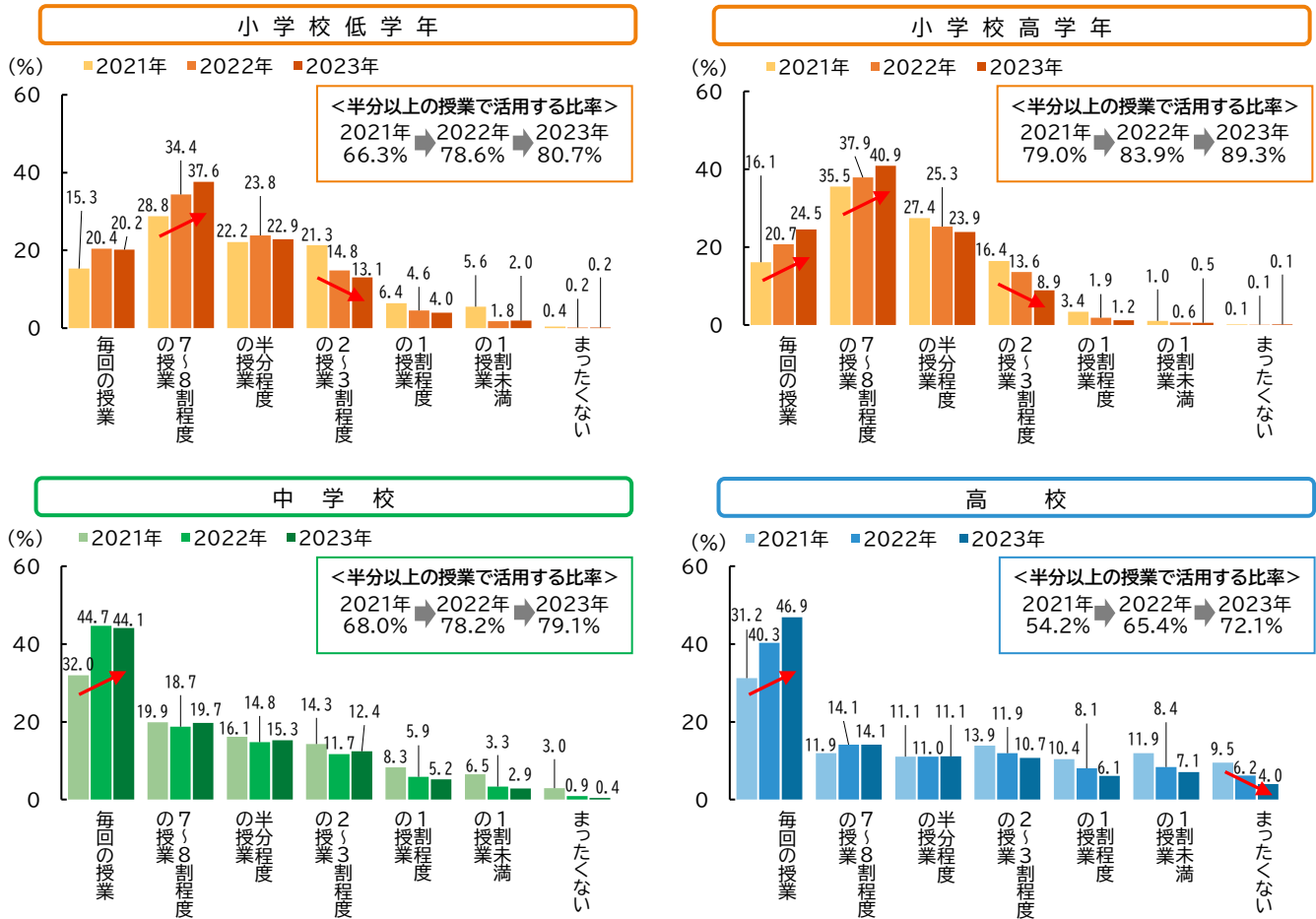
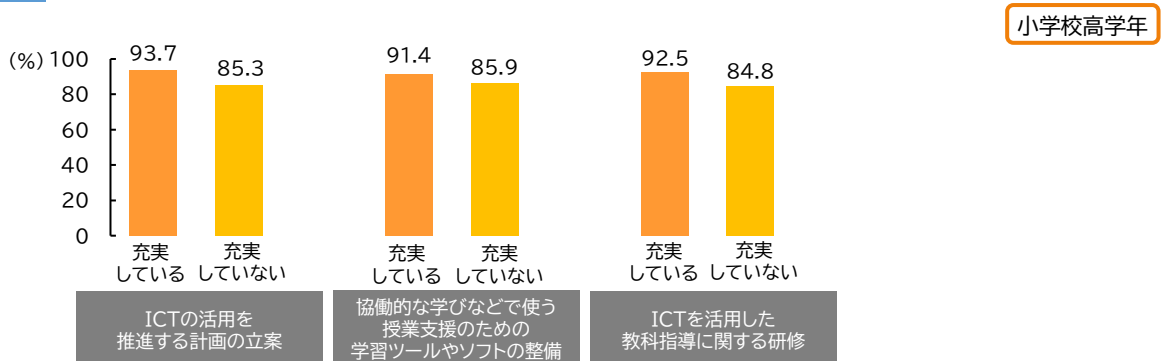


図1-6 教員の授業でのICT機器の活用頻度<半分以上の授業で活用する比率>(端末の利用環境の充実度別)



※「半分以上の授業で活用する比率」は、「毎回の授業」+「7～8割程度の授業」+「半分程度の授業」の%（図1-5、図1-6）。  
 ※端末環境の充実度は、p.8-9の項目を使用。「充実している」は「とても充実している」「まあ充実している」と回答した教員、「充実していない」は「あまり充実していない」「まったく充実していない」と回答した教員（図1-6）。

## 児童・生徒の授業でのICT機器の活用頻度

### 半分以上の授業でICT機器を活用している児童は、小学校高学年で74%

児童・生徒が授業でICT機器を活用する頻度は、小・中・高校とも、2021年からの2年間で大幅に高まっている。半分以上の授業（「毎回の授業」～「半分程度の授業」）で活用している比率は、2023年は、小学校高学年が74%、小学校低学年でも43%である。その内訳をみると、小学校高学年では「半分程度の授業」で、小学校低学年、中・高校では「2～3割程度の授業」で活用している比率が高い（図1-7）。端末の利用環境の充実度との関連をみると、小学校高学年では、「ICTの活用を推進する計画の立案」「教員間の活用ノウハウの共有」「児童が授業以外で1人1台端末やアプリを活用する機会」などが充実しているほど、児童・生徒がICT機器を活用する頻度が高い（図1-8）。他の学校段階でも同様の傾向がみられる。

Q あなたは授業のなかでICT機器をどれくらいの頻度で使用していますか。  
 ——「児童・生徒がICT機器を使って学ぶこと」

図1-7 児童・生徒の授業でのICT機器の活用頻度（経年比較、学校段階別）

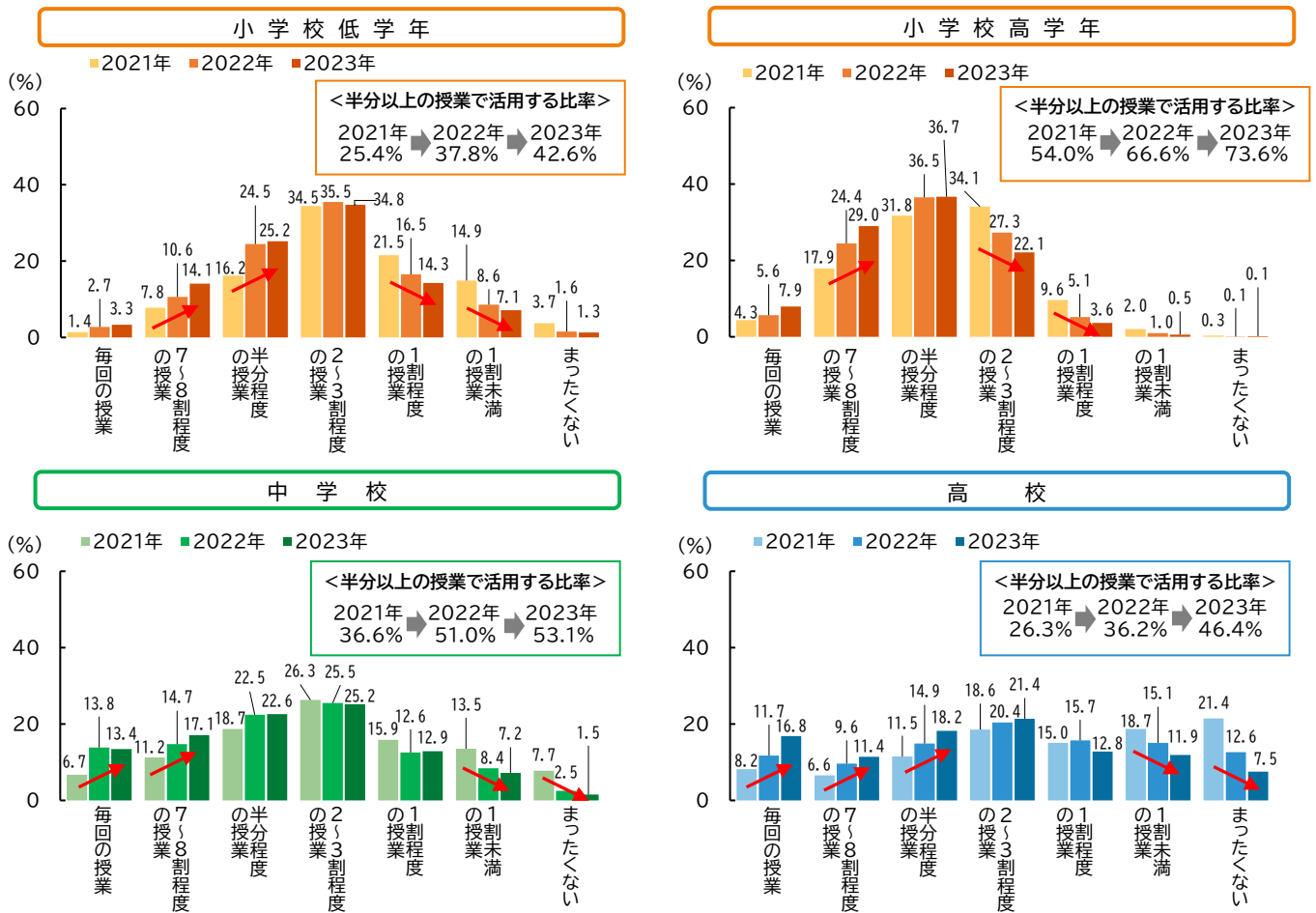
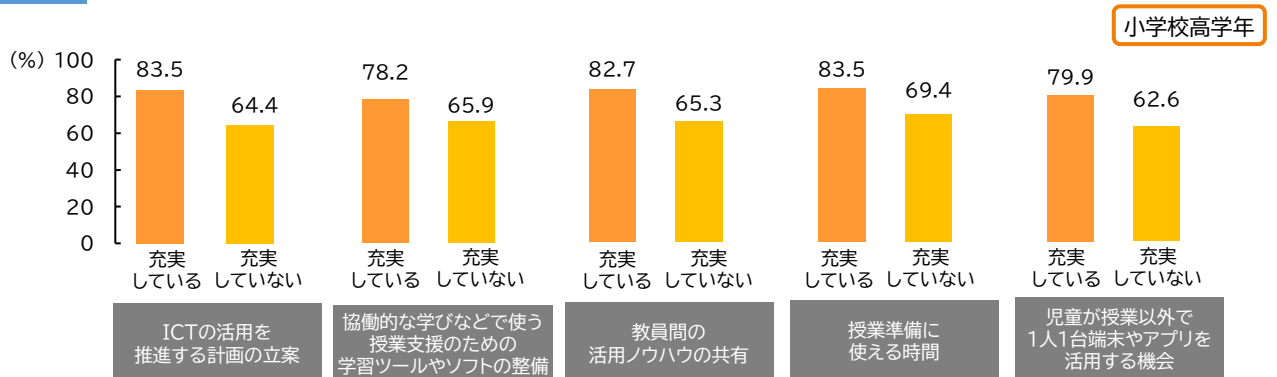


図1-8 児童・生徒の授業でのICT機器の活用頻度＜半分以上の授業で活用する比率＞（端末の利用環境の充実度別）



※「半分以上の授業で活用する比率」は、「毎回の授業」+「7～8割程度の授業」+「半分程度の授業」の%（図1-7、図1-8）。  
 ※端末環境の充実度は、p.8-9の項目を使用。「充実している」は「とても充実している」「まあ充実している」と回答した教員、「充実していない」は「あまり充実していない」「まったく充実していない」と回答した教員（図1-8）。

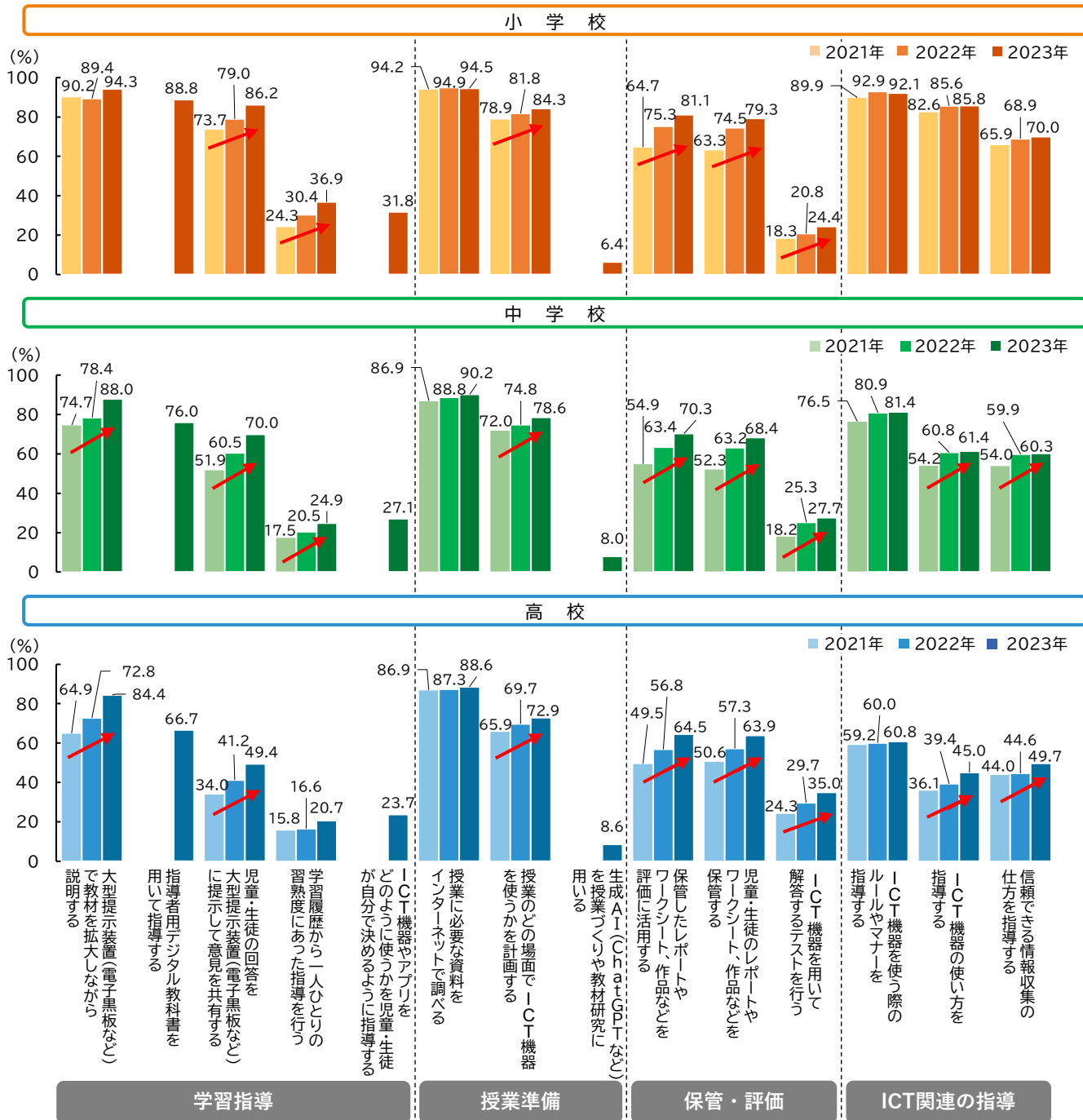
## 教員のICT機器の活用内容

### 児童・生徒の意見の共有や評価への活用が増加

教員がICT機器を活用する場面は増加している。なかでも、2022年からの1年間で、小・中・高校ともに比率が高まっているのは、「児童・生徒の回答を大型提示装置（電子黒板など）に提示して意見を共有する」、児童・生徒のレポートなどを「評価に活用する」である。高校では、ここ1年間で比率が高まった項目が多い。また、今回初めて尋ねた「ICT機器やアプリをどのように使うかを児童・生徒が自分で決めるように指導する」の比率は、小学校が3割台、中・高校が2割台で、児童・生徒が使い方を決定する機会も設けられ始めている。「生成AIを授業づくりや教材研究に用いる」は1割未満である。

あなたは、ICT機器を活用して、次のような学習指導(14項目)をどれくらい行っていますか。

図1-9 教員のICT機器の活用内容(経年比較)



※「あなた（教員）がICT機器を使って指導すること」の頻度を尋ねた質問（p.10）に「毎回の授業」～「1割未満の授業」と回答した教員のみ回答。  
 ※「指導者用デジタル教科書を用いて指導する」「ICT機器やアプリをどのように使うかを児童・生徒が自分で決めるように指導する」「生成AI（ChatGPTなど）を授業づくりや教材研究に用いる」は2021年、2022年は尋ねていない。  
 ※項目中の「大型提示装置（電子黒板など）」は、2021年、2022年は「電子黒板など」としている。  
 ※「よく行っている」+「ときどき行っている」の%。

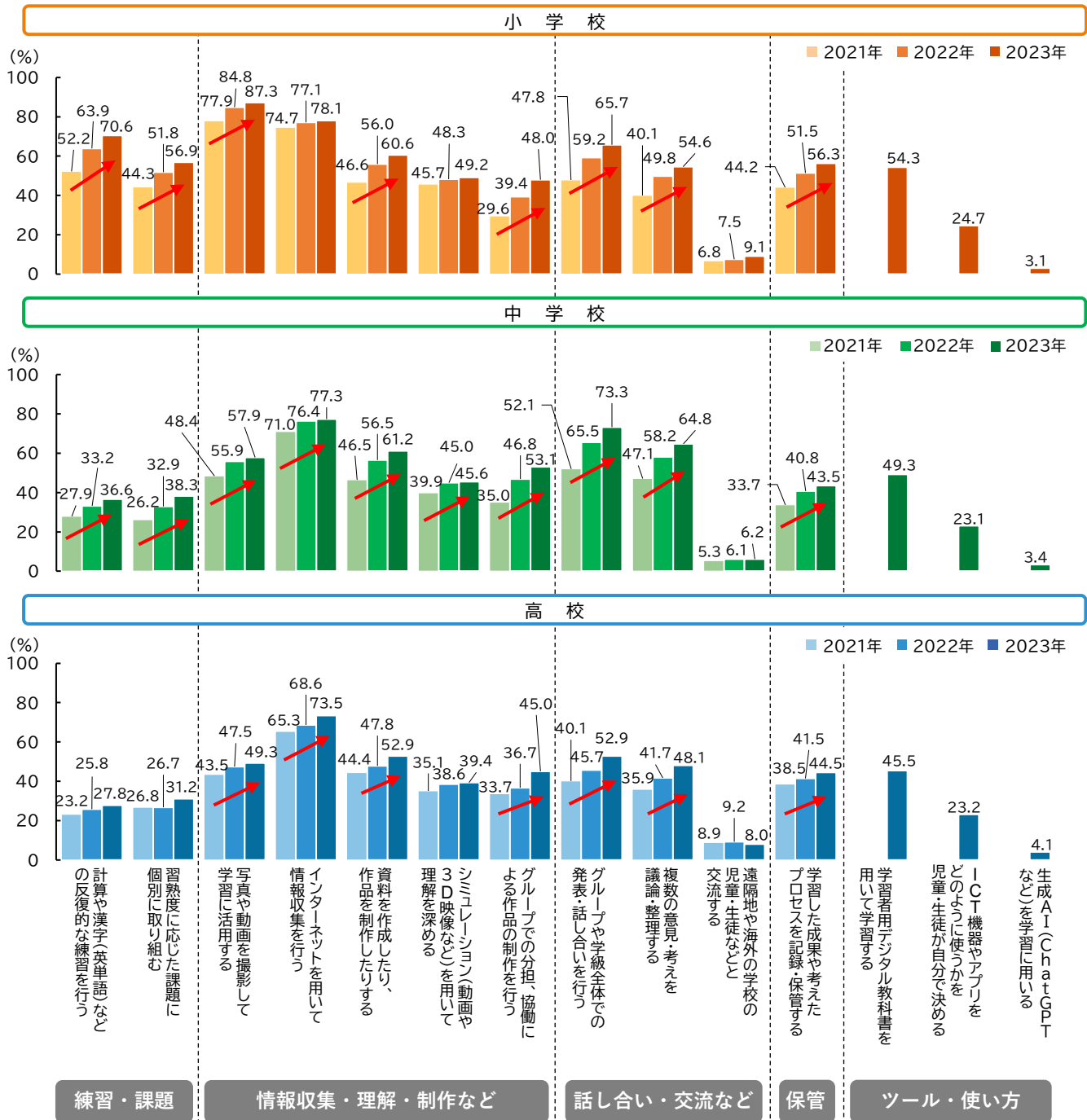
## 児童・生徒のICT機器の活用内容

### 協働的な学習とともに、個別の学習への活用も増加

児童・生徒がICT機器を活用する場面も増加している。なかでも、2022年からの1年間で、小・中・高校ともに比率が高まっているのは、「グループでの分担、協働による作品の制作を行う」「グループや学級全体での発表・話し合いを行う」であり、協働的な学習への活用が進んでいる。一方で、小・中学校では、「反復的な練習を行う」「習熟度に応じた課題に個別に取り組む」の比率も高まっており、個別の学習への活用も進められている。また、今回初めて尋ねた「ICT機器やアプリをどのように使うかを児童・生徒が自分で決める」の比率は、小・中・高校とも2割台であった。

あなたは、ICT機器を活用して、次のような学習指導(14項目)をどれくらい行っていますか。

図1-10 児童・生徒のICT機器の活用内容(経年比較)



※「児童・生徒がICT機器を使って学ぶこと」の頻度を尋ねた質問 (p.11) に「毎回の授業」～「1割未満の授業」と回答した教員のみの回答。  
 ※「学習者用デジタル教科書を用いて学習する」「ICT機器やアプリをどのように使うかを児童・生徒が自分で決める」「生成AI(ChatGPTなど)を学習に用いる」は2021年、2022年は尋ねていない。  
 ※小学校は「計算や漢字などの反復的な練習を行う」、中・高校は「計算や英単語などの反復的な練習を行う」と尋ねている。  
 ※「よく行っている」+「ときどき行っている」の%。



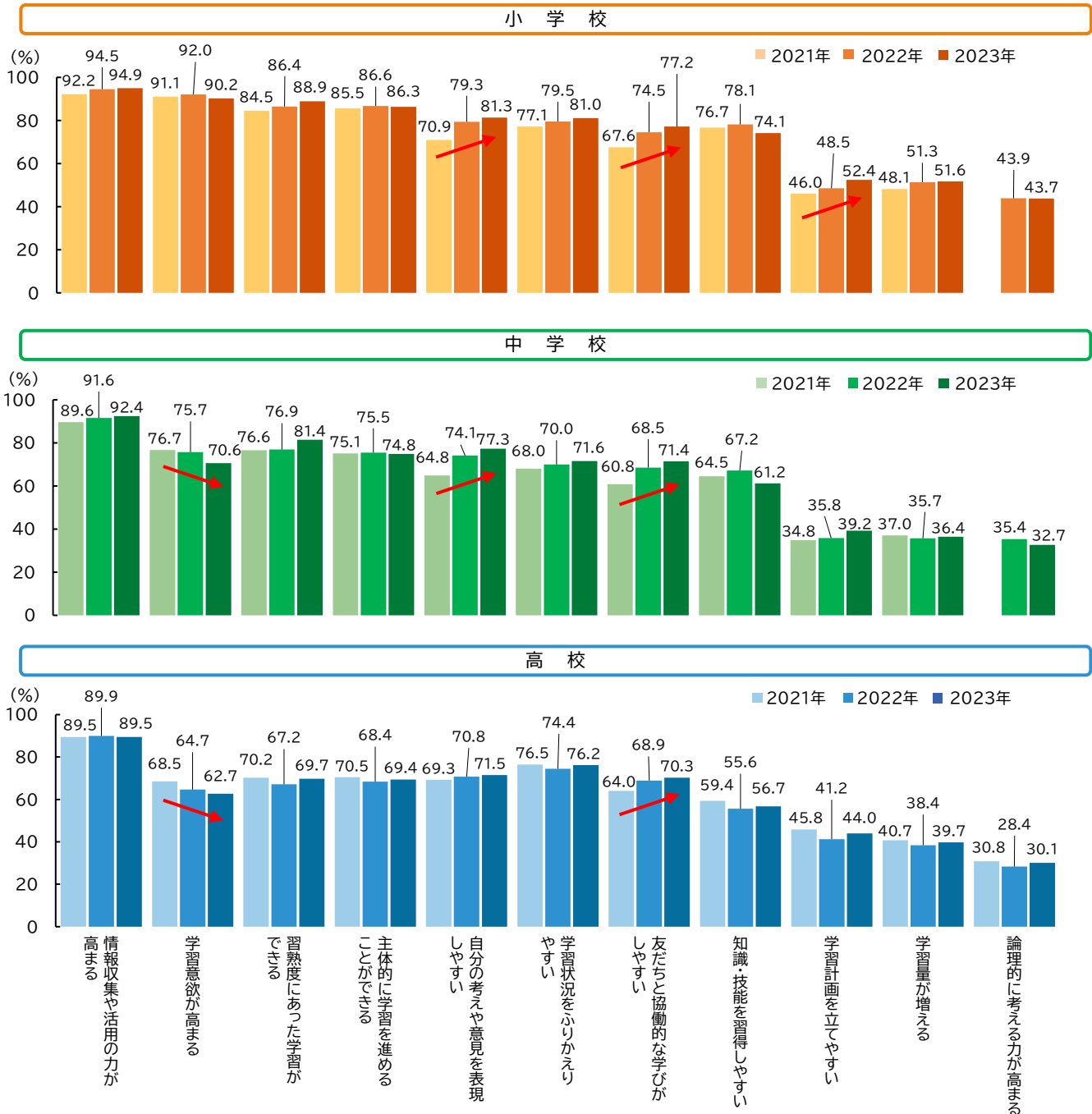
児童・生徒にとっての1人1台端末の効果

意見の表現のしやすさや協働的な学びへの効果実感が高まっている

1人1台端末を使った学習のプラス面として、小・中学校では、2021年からの2年間で、「自分の考えや意見を表現しやすい」「友だちと協働的な学びがしやすい」が10ポイント程度増加し、高校でも「友だちと協働的な学びがしやすい」が5ポイント以上増加している。一方、中・高校では「学習意欲が高まる」がここ2年間で、また、中学校では「知識・技能を習得しやすい」が、ここ1年間で5ポイント以上減少している。「学習意欲が高まる」は、小学校では約9割と高い水準を保っているが、1人1台端末によって学習意欲や知識・技能などの資質・能力を高めることは、決して容易ではないことがうかがえる。

Q 1人1台端末を使った学習は、児童・生徒にとってどのような効果があると思いますか。

図1-11 児童・生徒にとっての1人1台端末の効果(経年比較)



※高校は「ICT機器を使った学習」について尋ねている。  
 ※小・中学校は、1人1台端末の「導入が完了している(あてはまる)」と回答した教員のみの回答。  
 ※「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

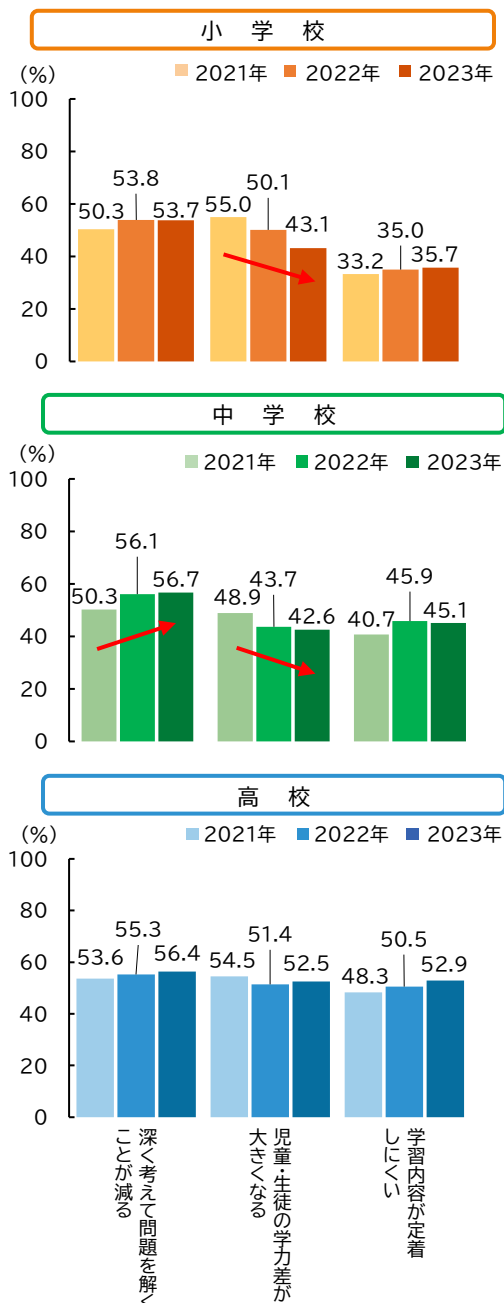
児童・生徒にとっての1人1台端末の影響

「学力差が大きくなる」は減少、  
「深く考えて問題を解くことが減る」は5割強

「児童・生徒の学力差が大きくなる」は、ここ2年間で、小学校で10ポイント以上、中学校で5ポイント以上減少しており、1人1台端末の活用が学力差を拡大させる懸念は弱まっていると考えられる。一方で、「深く考えて問題を解くことが減る」は、小・中・高校とも5割強のままであり、懸念される。

Q 1人1台端末を使った学習は、児童・生徒にとってどのような影響があると思いますか。

図1-11 児童・生徒にとっての1人1台端末の影響(経年比較)



※高校は「ICT機器を使った学習」について尋ねている。  
 ※小・中学校は、「1人1台端末の「導入が完了している(あてはまる)」と回答した教員のみ」の回答。  
 ※「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

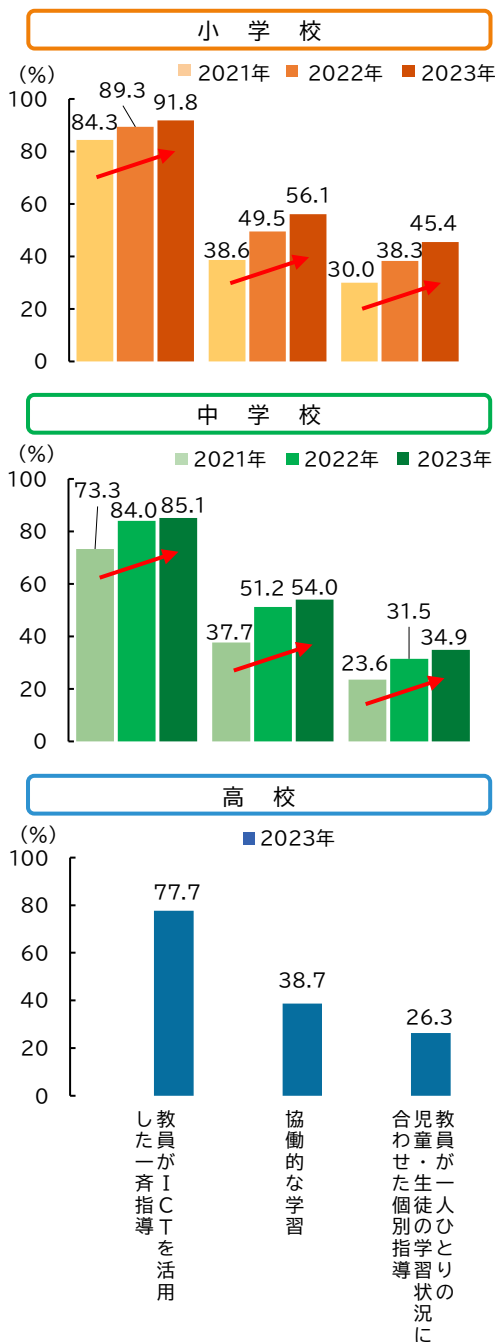
教員が捉えるGIGAスクール構想の実現度

「協働的な学習」や「個別指導」の実現度が高まっている

GIGAスクール構想がどれくらい実現しているかを、学習・指導の形態別に尋ねたところ、小学校では「一斉指導」がもっとも高く9割を超えている。「協働的な学習」と「個別指導」は5割前後であるが、ここ2年間で15ポイント以上増加している。中・高校では、いずれも小学校ほど実現度は高くないが、傾向は共通している。

Q 1人1台端末を活用した学習指導について、あなたは現在どれくらい実現していると思いますか。

図1-12 GIGAスクール構想の実現度(経年比較)



※高校は2021年、2022年は尋ねていない。  
 ※「かなり実現している」+「まあ実現している」の%。

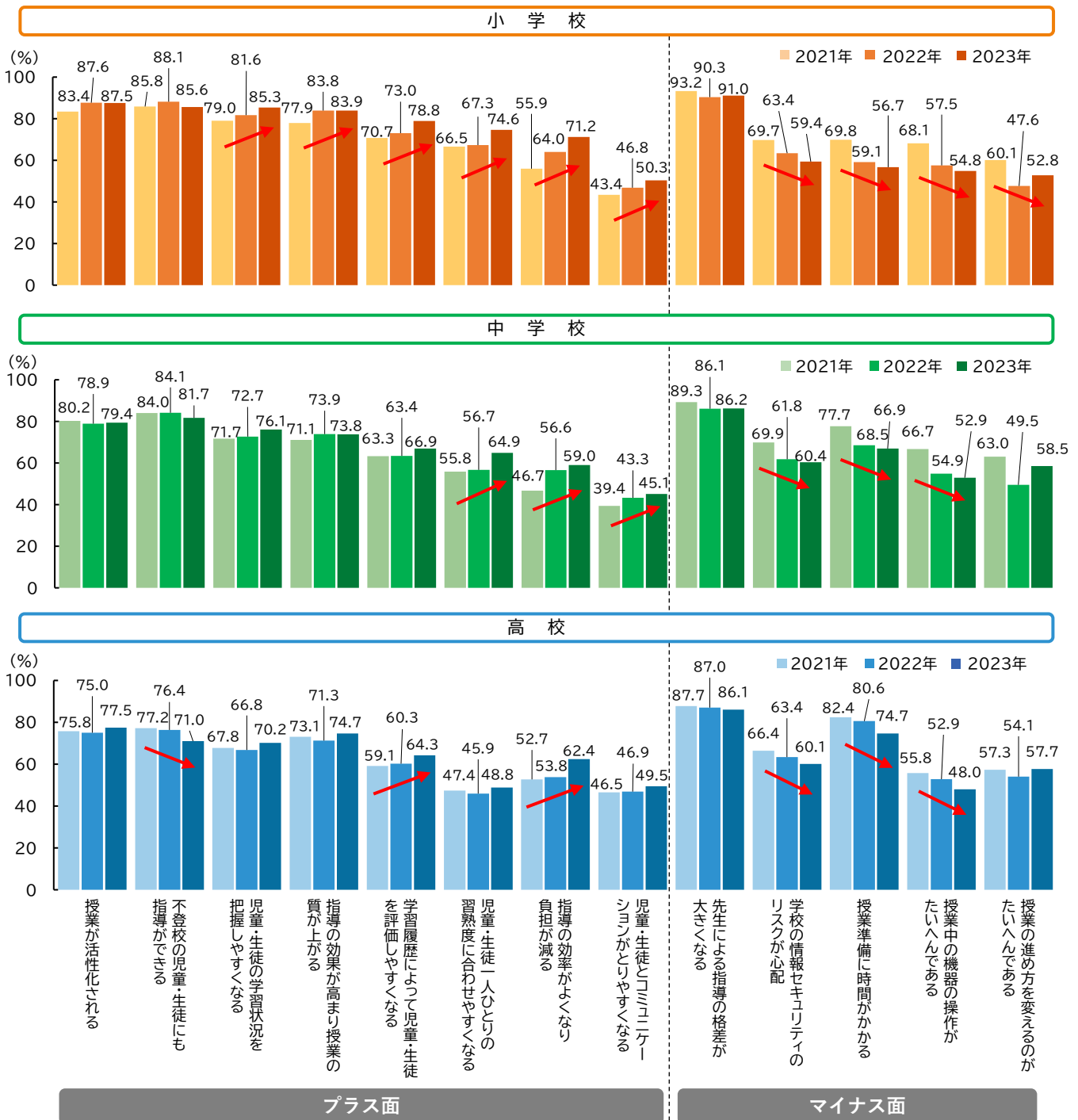
教員にとっての1人1台端末の効果・影響

教員は、評価のしやすさ、習熟度に合わせて指導、指導の効率化に効果を感じている

1人1台端末の教員の指導にとってのプラス面として、2021年からの2年間で大きく増加しているのは、「学習履歴によって児童・生徒を評価しやすくなる」(小・高校)、「一人ひとりの習熟度に合わせてやすくなる」(小・中学校)、「指導の効率がよくなり負担が減る」(小・中・高校)である。学校段階によって効果が多少異なるようだ。一方、マイナス面をみると、小・中学校では、「授業の進め方を変えるのがたいへんである」が、2022年に減少し、2023年に再び増加した。端末の導入が一段落し、授業の進め方を再考する状況にあるのかもしれない。

Q 1人1台端末を使った学習は、教員の指導にとってどのような効果や影響があると思いますか。

図1-13 教員にとっての1人1台端末の効果・影響(経年比較)



※高校は「ICT機器を使った学習」について尋ねている。  
 ※小・中学校は、「1人1台端末の導入が完了している(あてはまる)」と回答した教員のみを回答。  
 ※「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。